

大空に翔る

山形県スポーツ少年団発足40周年記念 特 集 号

県本部発足当時から活動しているスポーツ少年団



おもたか柔道スポーツ少年団 (村山支部)



真室川少年ジャイアンツスポーツ少年団 (最上支部)



吉島地区スポーツ少年団のレクリエーション活動 (置賜支部)



第2回全国スポーツ少年大会に参加した余目町スポーツ少年団員

山形県にスポーツ少年団が芽生え、創設されてから四十年を迎えました。心から慶賀いたします。今では、全国に誇れる組織にまで発展、充実してまいりました。関係した先人、先輩の方々の先見の明と熱意に心から敬意を表するものであります。

事務局からの報告によりますと、平成十四年度に登録された、団員、団数が前年度より増加しているとのことでした。今日の少子化社会にあつて、増加しているということは、スポーツ少年団に対する地域社会の期待の大きさを反映したものと考えます。ご承知のように、スポーツ少年団は、団員、指導者、そして、リーダーや、母集団で構成される、他に例のない磐石な集団であります。更に、教育委員会や、体育協会(各種競技団体)学校や、地域等より、力強く支えられています。この大きな力が、地域スポーツ発展の原動力となり、四十年間で培った信頼と期待に応える事が肝要かと思えます。

今後とも一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。



あいさつ

山形県スポーツ少年団
本部長 原田 薫

特集

山形県スポーツ少年団発足四十周年記念特集

四十年前を振り返って

荒谷柔剣道スポーツ少年団

藤山英夫

昭和三十年頃は、戦後の混乱が落ちついて、社会全体が変わろうとしていた時でした。

我が荒谷地区でも、「今後の地区の発展には若い力が大切だ、青少年の健全育成に力をいれよう」という気運が高まりつつありました。

その当時、地区には、柔道や剣道をやっている人たちがいました。その人々を中心にして、武道を通して健全育成を図ろう、そのためのクラブを作ろうという話を持ち上がりました。

クラブを作るには、地区の理解が必要で、また、子どもを指導してくれる人材の確保も必要でした。「これからの若い人を育てなければ」という思いで、あちこち走り回って一人一人の説得を繰り返す日々でした。お陰様で地域の人々のご理解と、たくさんの方々の善意に支えられて、クラブが発足しました。今はもう他界された、当時ご

尽力下さった方々の懐かしい笑顔が次々に浮かんできます。

分教場隣の作業場を借りて、柔道畳三〇枚と剣道防具五着からのクラブのスタートでした。少し軌道に乗ってきた頃、各地でスポーツ少年団が結成され始めていました。子ども達の技を磨く場を広げてあげたいという願いと丁度合致して、荒谷地区柔剣道スポーツ少年団の誕生となったのです。

大人も子どもも共に一生懸命に励みました。しかし何時しか活動が休止してしまいました。そんな時、駐在所に須藤光昭氏が赴任しました。彼の熱意と行動力が人々を動かし、荒谷柔道教室と名前も新たに活動を再開しました。柔道を通して心身共に健やかな少年を育成しようという目的の下、父兄と指導者が心を一つにして運営しました。道場のない子ども達のために、父兄会の献身的な協力と夜を徹した工事で、畑の中にビニールハウス柔道場が完成した時のことを今も思い出します。

時代は移り、あの頃の子ども達が、地域で活躍している姿を見ると、本当に嬉しくなります。次の世代へと引き継いで欲しいと願っています。

山形県スポーツ少年団のあゆみ		年月日	内容
昭和	43.4.1	37.6.23	○日本体育協会五十周年記念事業として日本スポーツ少年団が創設される。
	41.8	38.4.1	○山形県市町村体育担当者会にてスポーツ少年団の結成が提言される。
	40.8	38.7.25	○山形県スポーツ少年団創設初代本部長 米田 満氏 天童市に本県初のスポーツ少年団誕生(山形県体育史)
	39.10.10		○第一回全国スポーツ少年大会(静岡県御殿場市国立青年の家)に本県から二〇名参加
			○全国登録団数一、三三三団 同団員三六、三六九名
			○第十八回オリンピック東京大会が開催され国旗掲揚聖火リレー等に協力
			○第一回山形県スポーツ少年大会開催(山形市)以後毎年開催
			○市町村にスポーツ少年団本部設置を日本本部で決定
			○日本スポーツ少年団指導者協議会規定制定
			○第二代本部長 河田利夫氏

山形県スポーツ少年団のあゆみ		年月日	内容
昭和	58.12.9	49.7	○第一回日独スポーツ少年団同時交流で石井敏光(錦川剣道)古瀬勝弘(常盤剣道)の二名を独へ派遣以後毎年派遣で、計指導者十四名 団員八一名
	54.4.1	51.4	○全国都道府県本部長会議で緊急三ヶ年計画の推進を確認
	52.11.30	50.11	○緊急三ヶ年計画発足(有料登録制代議員制度導入) 登録団員一一万から五一万名に減少
	52.4.1	51.10.17	○県政百年記念県民スポーツ大会・県スポーツ少年大会同時開催
			○山形県スポーツ少年団設置規定制定
			○第三代本部長 宍戸一郎氏
			○山形県登録団数二三五団 団員一、六三四名
			○第四代本部長 永田亀昭氏
			○山形県スポーツ少年団表彰規程制定
			○山形県スポーツ少年団二十周年記念功労者表彰十二名 優良団六団 受賞以後毎年実施 功労者受賞一八二名 優良団一六八団

大空に翔る

年月日	内容
4	○第四十七回国民体育大会へ にばな国体開催
4・6	○日本スポーツ少年団創設三十周年記念事業「地球・三十四周年チャレンジ大会」四四市町村参加一八、三六九名で二一、一五二、六七二M走破
5・9・26	○「にばな国体」記念第一回山形県少年少女スポーツ交流大会開催
9・4・1	○第五代本部長原田薫氏就任
12・8・16・18	○ジュニアリーダーと日中青少年スポーツ交流(鶴岡金峰)
13・8	○日中青少年スポーツ交流に村田久忠団員二〇名中国派遣
14・9	○独青少年セミナーに遠藤啓一・菊池敏宏派遣
14・10	○日本スポーツ少年団創設四十周年記念表彰受賞者四九〇名 三二二団
15・2・3	○県登録団一、〇三九団 団員二五、四二六名 指導者五、六九六名
15・3・27・29	○全国スポーツ少年団剣道交流大会開催 鶴岡市
15・4・1	○県スポーツ少年団本部七支部より四支部体制になる
15・9・10	○県少年少女スポーツ交流大会県本部主催・中学生陸上サッカートランポリン参加
16・2	○「大空に翔ける」県スポーツ少年団発足四十周年記念号発行

昭和	年	受賞者名
63	年	堀善之助(鶴岡市)加藤克哉(酒田市)斎藤慎一郎(新庄市)荒井 巖(山形市)
元		小林清一(酒田市)阿部寅治(藤島町)藤山英夫(天童市)小林 勉(村山市)
2		五十嵐正恒(松山町)小口周市(白鷹町)木村久雄(山形市)小松茂美(新庄市)
3		菊地茂男(川西町)飛川芳美(東根市)後藤興三郎(平田町)萩谷敏雄(羽黒町)
4		△感謝状▽ 佐藤智己(長井市)安斎英助(山形市)長田 浩(上市市)
5		近藤徳太郎(三川町)川原秋一(平田町)阿部今朝雄(新庄市)佐藤 寛(鶴岡市)
6		榊 寿太(朝日町)高橋 正(南陽市)半田 信(戸沢村)四釜誠司(長井市)
7		菅原清作(遊佐町)池田健吉(余目町)高内義博(山形市)高梨俊昭(河北町)
8		坂田喜一郎(川西町)本間清治(鶴岡市)小野寺宗夫(小国町)佐藤幸吉(新庄市)
9		井田辰男(寒河江市)加藤 勉(酒田市)佐藤徳四郎(山辺町)中村 忠(余目町)
10		近野晶嗣(高島町)粕川孝男(飯豊町)鎌田 剛(山形市)鈴木正己(朝日町)
11		坂垣規雄(大石田町)二宮建夫(最上町)米野 稔(長井市)門間延行(南陽市)
12		前田生也(八幡町)△感謝状▽ 菊地茂男(川西町)
13		鈴木是行(山形市)柏屋年夫(河北町)佐藤保雄(東根市)前田 均(酒田市)
14		木村義博(上市市)奥山金助(新庄市)大渡朝生(米沢市)村田久忠(鶴岡市)
15		森 秀雄(大石田町)宮澤正富(鶴岡市)佐藤忠吉(真室川町)山中 俊(松山町)

昭和	年	受賞者名
49	年	五十嵐正恒(松山町)
10		永田龜昭(上市市)



▲故 五十嵐正恒氏



▶故 永田龜昭氏

文部科学大臣表彰体育功労者受賞者
(スポーツ少年団関係者のみ)

昭和	年	本部名	本部名
63	年	山形市	尾花沢市
元		鶴岡市	新庄市
2		川西町	上市市
3		小国町	平田町
4		酒田市	長井市
5		米沢市	真室川町
6		白鷹町	河北町
7		寒河江市	朝日村

日本スポーツ少年団顕彰受賞市町村本部
(スポーツ少年団本部省略)

昭和	年	受賞者名
60	年	西村常信(山形市)
4		高橋佛一(長井市)
6		荒井 巖(山形市)

山形県教育功労者表彰受賞者

昭和	年	団名
60	年	稲穂サッカー(鶴岡市)
61		鈴川剣道(山形市)
62		真室川スキー(鶴岡市)
63		城北(鶴岡市)
元		川西町吉島地区
2		大谷Jr剣道(朝日町)
3		長井市柔道
4		鶴 東(鶴岡市)
5		河北柔道
6		寒河江中部小ミニバスケ
7		おもたか柔道(尾花沢市)
8		あけぼの(川西町)
9		高 瀬(山形市)
10		荒砥剣道(白鷹町)
11		大 山(鶴岡市)
12		泉学区(酒田市)
13		二井宿(高島町)
14		真室川少年ジャイアンツ
15		千 歳(山形市)

文部科学大臣表彰優良団体受賞団
(スポーツ少年団省略)



七月十九日東京にて結団式より八月十二日、日本着までの思い出残る感想を紹介します。

七月二十一日にフランクフルトに着いての第一声が「ドイツってこんなに暑いウソー」事前研修では八月の平均温度が二〇度以下ということでしたのでまったく予想外でした。この暑さが帰るまで続くとは団員想像もつかなかったことだろう。

日独同時交流派遣 日独同時交流に参加して

細谷清隆

今回で日独同時交流会が三十回という記念すべき交流そして今後四年間の調印式に参加することができました。地方プログラムについて紹介します。最初は、フランクフルトからマイクロバスでアウトバンを南下、夢にまで見たアウトバンを走り車窓から見える広大な穀倉地帯とレンガ色の家屋、教会寺院等日本では見たことのない広大な景観に唯感動を覚えるばかりでした。着いた所がポツキン市、市職員、ホームステイの方々より出迎えられ、団員も安心、その後表敬訪問し副市長より歓迎のあいさつがなんと長く市の歴史等の説明あり初日よりドイツ人の勤勉さにおどろかされました。ホームステイ先は市内で、五十代後半のご夫婦だけの家庭でとても大事にさ

れました。二日目に昨年東北に団長として来日したペーターさんに逢うことができました。小学校では体育の先生で授業に参加し、色々なスポーツ体験をするこ

れしました。

とが出来ました。小学校は一年から八年生まで生徒数三〇〇名程度、学校全体が木造で何となく勉強したくなるような雰囲気がありました。次にランスポートのスポーツクラブ「FTSV 9ランスフート」は完全なクラブで種目はサッカー、陸上、バレー、体操、卓球、ハンドボール、合気道等があり、クラブ員五〇〇名で会費は一ヶ月大人八ユーロで特に強いのがハンドボールでドイツ国内でも強いといっていました。施設もサッカー場二面グラウンド四〇〇M一面、体育館二館、小体育館、クラブハウス等がありソフト、ハード共に立派なクラブでした。しかし若い人が減少しているのが悩みだと頭をかかえていました。今回日独交流に参加して感じた事は、世界は広い、考え方も大陸的でとても幅広いスポーツを通じてこの広さを団員につたえていく事が必要だと感じてきました。この機会をあたえてくれた、県事務局をはじめ多くのスポーツ団体の皆様

に心より感謝申し上げます。



私の家族が国際交流の一端を担うとは思っていませんでしたので、ドイツ団受入を決めてからは、不安をいつも拭き切れることはできませんでした。コミュニケーションをいかにするかが不安の素でしたので、急遽、インターネットでハンディータイプの「十力国語対応自動翻訳機」を購入しました。音声まで出してくれるメカですから、未知のドイツ語でも何とかなると期待しました。

日独同時交流受入

「レネともっと話したかった」

三喜夫 佐藤

しかし、その期待はレネ君との初顔合わせの場で見事に打ち砕かれてしまいました。レネ君の父親の職業を問いかけてみたが、全く通じないありさまで、通訳の方を介して父親が校長であることが判りました。翻訳機のスペルが違うことが原因であつたため、その後はドイツ語をあきらめ英語で話すことに切り替えました。

ただし、当方にはドイツ語と同様に英語も自由に話せる能力は無く、レネ君には英和辞典を持たせ、我々は和英辞典を片手に、互いに言いたいことを指先で示しての会話となりました。言葉に詰まれば、つい日本語が出るもので、その日本語もアクセントが英

語調になつてしまい、家族の者で苦笑するものが多くありました。

このような会話から痛感したことは、世界には共通語が必要であり、せめて、英語の会話能力程度は身に付けておくべきとの感慨でした。

英語が判るレネ君に「ソバやラーメンは音を立てて吸った方が美味しい」ことや、「日本酒は、冷でも燗でも飲めて、酒の肴にはスルメが最高」ということを伝えられたと思います。文化の違いとはいえ、悪魔の食物と言ってイカ、タコを大きな身振り拒絶するレネ君の姿が浮かんできます。ダイムラー・ベント社の技術者として働くことを将来の希望として熱く語るレネ君。我家での最初の夜に震度六の地震に出会わした初体験を、「ヤマガタ、アリガトウ」と喜々とした表情で話していたレネ君。シャイで陽気で礼儀正しいレネ君にとって、この夏の経験が一生に亘る良い思い出となつてくれることを、切に願っております。



第39回山形県スポーツ少年大会(兼)ジュニアリーダースクール

置賜教育事務所社会体育主事 川村正彦

山形県スポーツ少年団活動の夏の恒例事業となっていた「スポーツ少年大会」と「ジュニアリーダースクール」の「二つの事業」が今年度から「同時開催」となり、県内各地から、小学校五・六年生五二名、中学校一〜三年生四六名、合計九八名の団員が集まり、平成十五年八月八日(金)〜十日(日)の三日間の日程で、山形県飯豊少年自然の家(置賜)を会場に開催された。

今回は「同時開催」のため、初めて小学生と中学生が顔を合わせるようになった。活動内容としては、「交流ゲーム・感想文(小学生)」と「講義・グループ討議(中学生)」等のそれぞれが別々に行うものと「ニュースポーツ体験(キンボール・ユニホッケーの二種目)」と「キャンドルサーブス(キャンプファイアの予定であったが、台風の影響を考慮して変更)」のように同時に行うものの二本立てとなった。当初はお互い困惑した雰囲気を漂わせていたが、さまざまな活動を通して雰囲気も徐々に変わったようである。特に中学生については、「リーダーとしての自覚も出てきたように感じられた。それぞれの団員たちの感想文を読むと「新しい仲間が出来た」、「とても楽しい時間が過ごせた」等の感想が多く「夏休



加者・関係者のみなさん「初体験」大変ご苦労さまでした。

みのよい思い出」となったようである。最後にこれからに向けて、今回の事業を振り返って見ると、事業内容の異なる二つの事業を同時に行うという「大きな課題」を持って開催され、「活動プログラム・指導体制」にそれぞれの内容にあったものが要求されていた。しかし、ある程度の予想はしていたものの、初めてということもあり、その要求を満たすことは今回の事業だけでは難しく、様々な検討課題を残すこととなった。そんな中ではあったが、中学生と小学生が同時に活動する中で付加価値的に生まれた「新たな財産」もみられたので、大事にして行きたいところである。参加者・関係者のみなさん「初体験」大変ご苦労さまでした。

平成15年度東北ブロック指導者研究協議会

(兼)山形県指導者研修会に参加して

石川武利

例年であれば県単独に研修会を行っているのですが、今回は東北ブロック研究協議会と一緒に研修会になりました。考え方によっては、東北各県で抱えている現状や問題点が報告される好機なのかもしれない。少なくとも私はそういう気持ちで参加しました。今回の協議課題について各県の取り組みや進行状況に注目して見ると、かなりの差があると思えました。前向きに進んでいる県もあれば、少し迷いながら少しずつ進めている県もありました。本県においてはいろんな意見のもと末端まで呼びかけはしたものの、動きが少なく全体的に今少しの押しが必要な感じがしました。いずれにしても、各県とも具体的に動き出し、それなりの成果を上げているのが実状です。いずれ各県とも足並みが揃い、新しい時代に合った指導者の資質向上が見られ、組織体制の充実をも計られるのではないのでしょうか。県内関係者一丸となつて力を合わせ早急に確立したいものです。

私は以前から指導者の質の向上について大きな関心を持っていました。指導体制はもちろんのこと、育成母集団の充実や地域総合型クラブの結成設立についてもすべて指導者の質の向上に伴う手腕組織力にかかっていると思つていました。スポーツ感覚見直しの時代になった現在においては、なおさらこの力に頼らざるを得ないと思います。いつでもどこでも年代に関係なく手軽にできるスポーツ、それこそ生涯スポーツです。これらを実践し広く一般に普及させるにも、やはり我々指導者の組織力であり、指導者個人の人間性でもあると思います。指導を通して常に新鮮ではつらつとした気持ちで接してくれる指導者や、相手のことを真剣に考えてくれる指導者がいれば、それこそ最高の集合体ができるのではないのでしょうか。地域総合型クラブの要求していることの一つにも当てはまるのではないのでしょうか。そして、地域の方々力を借りて一生懸命続けることができるスポーツを、目指すべきだと思います。





立川町狩川バド
ミントン
スポーツ少年団
伊藤 沙織

「中学生になってもやりたい！」

わたしは、「バドミントンスポーツ少年団」に入っています。

小学校三年生からやっていて、ほとんど、高橋尚子さんと、ダブルスをくんできました。そして、いろいろな大会に出て、勝った時は、みんなでよろこび、負けてしまった時は、二人で、くやしくて泣いてしまう時もありました。

そんな私には、バドミントンのことで、願いがあります。それは、中学校に、バドミントン部を作ってほしいということです。今まで、もう少しでできそうだったけど、できなかつたみたいなので、来年は、バドミントン部をぜひ作ってほしいです。

しかし今は、バドミントンがとっても楽しくて大好きです。もうでれる試合も、少なくなってしまうけれども、その一つ一つの試合の、一しゅん一しゅんを、大切にしたいと思っています。わたしはバドミントンが大好きです。



作谷沢テニス
スポーツ少年団
吉田 郁哉

「ぼくとテニス」

ぼくがテニスを始めたのは、小学校四年生の時です。

きっかけは、お父さんがコーチをしているしお姉ちゃん二人がテニスをやっていたからです。

その時は、団員がとても少なかったので友達をさそって入部しました。

初めて練習をしたときは、フォアやバックなどでした。でもだんだん行っているうちにきびしくなっていきました。

でも友達と話したりしているうちに慣れてきて、はやくテニスに行きたいなと思うようになりました。

今は、山辺のテニスクラブといっしょに、日曜日練習をしています。

団員がふえたしコーチもふえたので、いろんな練習ができるようになりました。たくさん練習をしてもっと上手になりたいし、友達も沢山つくりたいです。

テニスのほかに、合宿やいもに会など楽しい事があるので、これからも続けていきたいです。



真室川柔道
スポーツ少年団
八織 開

「ぼくと柔道」

ぼくが柔道を始めた理由は、四年生の時に、同級生に誘われたからです。

それに、祖父が若い頃、柔道をやっていたので興味があつたからです。

練習は、週二回あります。大会が近づくと日曜練習があります。ぼくの家は学校から遠いので、学校の行事で遅くなると、家に帰ってすぐに練習にいかなくやいけない時もあります。そんな時は心も体も疲れていて、休みたくなる時もあります。でも、家族から応援されるので心を奮い立たせて道着に着がえます。

ぼくの好きな技は一本背おいです。相手が大きくてもタイミングさえ合えば投げ飛ばすことができます。試合ではまだ、決めたことはありませんが、あきらめずにがんばりたいと思います。柔道は体の大きさに関係なく、技で相手に勝つことができるスポーツです。一本背おいの他にも色々な技を身にがんばりたいと思います。



長井市体操
スポーツ少年団
沼澤友香里

「私の夢」

私は、体操スポーツ少年団に入団して五年目になります。通常活動と特別活動がありますが、友達ができて、活動日がとても楽しみです。特に色々な技ができるようになりますます力がはいります。

私の「夢」は、少年団の指導者になって、世界の団員と交流をすることです。山形県の少年スポーツ大会に二回参加しましたが、世界のスポーツの交流をしてきた先輩方のお話を聞いて興味をもちました。それは、スポーツを通じて、心と心をつなぐ大きな仕事です。いろんな国のいろんな人々とお話をし、交流を深めたいと思います。それにはまず、ジュニア、シニアのリーダーズクールやドイツ、中国などの交流会に参加して勉強したいです。また、私は体操が大好きなので、楽しみながらできる体操を考えていきたいです。

これからも体操スポーツ少年団を通して、「夢」がかなえられるように一生懸命がんばっていきます。

単位団紹介

置賜小松ホッケー

スポーツ少年団

代表指導者 柴田 卓朗

緑と愛と丘のあるまち「川西町」小松ホッケースポーツ少年団は、昭和六十三年に発足し、「べにはな国体」のため平成二年から四年まで休団し、平成五年から再び活動をしております。

我が団の活動目標として、「ホッケー競技を理解する」「ホッケー競技の楽しさを知る」「団員同士仲良くなる」「集団活動になれる」という四つの柱で、週二回練習をしています。

主な大会は、五月に栃木県今市市で開催される関東スポーツ少年団ホッケー交流大会と、八月に開催される全国スポーツ少年団ホッケー交流大会があります。また、年二回宮城県一迫町に遠征し交流をしています。

ホッケー競技以外にも町の綱引き大会等、育成会も町のユニホッケー大会ビーチバレーボール大会に出場し、スポーツを楽しんでいます。今後も楽しくホッケーを行いたいと思います。



村山市戸沢アスレチッククラブ

スポーツ少年団

代表指導者 高橋 衛

戸沢アスレチッククラブは、平成十四年に結成されたできたのクラブです。村山市内はもちろん、遠くは天童市からの団員を含め、現在団員五二名、指導者九名で練習に励んでいます。団員の他にも、一緒に陸上競技をやってみたいという父兄や社会人が参加して活動しているのが特徴です。

活動は、毎週日曜日午後二時から四時までの二時間、村山市立楯岡中学校の全天候型トラックで練習しています。グラウンドでは、小学生がお母さんと競走しているグループがあったり、中学生と社会人が必死に競い合っているグループがあったり、体力作りレベルから全国大会レベルまでの光景が見られます。体力作りという気持ちで参加していく中で、陸上競技に興味を持ってもらえるような指導を心掛けています。

団の成績も県の交流大会で優勝したり各種大会で上位入賞するなど充実しています。今後も、誰でも参加できるアスレチッククラブ目指して活動していきたいと思っています。



最上おおくら少女バレーボール

スポーツ少年団

代表指導者 伊藤 元吉

我がスポーツ少年団は、昭和五十七年に、ママさんバレーボールチームが「我が娘にスポーツを!!」という事がきっかけで発足、今年で二十三年目を迎えました。現在小学生十五名、中学生が八名と団員数の減少している近年です。活動内容としては、小学生は火・木・土、午後六時から午後八時、中学生は月・水・金、午後六時三十分から午後九時まで練習をしています。

指導者体制は、総括一名、小学生二名、中学生二名、計五名で指導いたしております。指導内容も、小学生は楽しいバレーボールを、中学生は技術バレーとぎり替えながら行っております。また、練習の苦しさや、チームワークの大切さを通して、スポーツウーマンである前に一人の女性として「気のきくかわいい女性」をめざして、練習に取りくんでお

ります。最後に我がチームの合言葉は「楽しくなければバレーじゃない!!」をモットーにがんばっています。



庄内三川卓球

スポーツ少年団

指導者 菅原 雄一

私たちの団は、昭和五十六年に「東郷卓球スポーツ少年団」として誕生し、平成十一年から現在の「三川卓球スポーツ少年団」となりました。

現在、団員は小学生が一年生から六年生まで約二〇名です。練習は週四回で、三川中学校の部活動と連携しながら、卓球の底辺拡大と競技力向上を目標に活動しています。団員は決して多くはありませんが、練習環境にも恵まれ、今年度は男子団体戦で全国大会出場、個人戦は男女合わせて六名が全国大会出場を果たしています。

卓球は、手軽にできるスポーツで、特に小学二年生以下のクラスは通常の台より一〇センチ低い台もあるため、時には幼児も卓球を楽しんでいます。三川町は大きな町ではありません。しかし、団員の確保が容易ではありません。自分なりの目標を持って、

その実現のために努力を続け、スポーツ活動を通じ、学校ではできない貴重な経験ができればと考えています。



山形県リーダー会から

私達、山形県リーダー会にはジュニア・シニアリーグの資格を持つ、高・大学生が中心となり、県出身のリーダー資格者に呼びかけ、結成されている会です。

『リーダー』とは、指導者と区別し、団員の代表者として、リーダーシップを発揮する者のことを言う。と日本スポーツ少年団では位置付けされています。実際、小学生主体のスポーツ少年団では団員のお兄さん、お姉さん役として、指導者と団員の間を取り持つパブリック的役目を担っています。

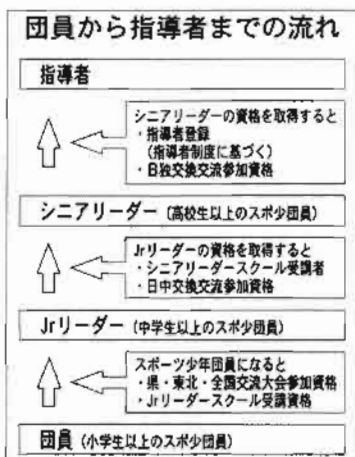
毎年、夏に県内各支部が持ち回りで、その地域の自然の家を会場に中学生以上を対象に二泊三日で開催されるジュニアリーダースクールに参加すると、ジュニアリーダーに認定されます。更に国立中央青年の家に四泊五日で全国のジュニアリーダーの資格を持つ高校生以上を対象に開催されるシニアリーダースクールに参加すれば、シニアリーダーに認定されます。

このシニアリーダーを取得することにより、ドイツ派遣団員や認定指導員の資格が与えられるのです。

これらで『リーダー』の資格を取得し、リーダーとして各スポーツ少年団で活動し、将来は自分の単位団での指導者となり、団員達を育成指導していくことを目標としています。

県内には、ジュニア、シニアリーダーの資格を持った人がまだ少なく、単位団や市町村によって大きな偏りが見られます。もっといろいろな団からリーダーを目指し頑張ってくれる中学生・高校生が増えてくれることを願っています。そして、活動の場がない、今後リーダーとしてどのようにしたら……と悩んでいるリーダーの皆さん。是非、私達と一緒にリーダー会で活動し、リーダーとしての考えを広げてみませんか？ スクーリングや都道府県レベルの大会の運営補助や話し合い等で、今まで見えなかったものが見えてくるかもしれません。入会の手続き等は県の事務局にお問い合わせ下さい。

小学生だけのスポーツ少年団ではなく、中学・高校と続け、将来的にも単位団と関わる輪を作れることを私達リーダー会も望んでいます。



県の動き

表彰

社会体育優良団体文部科学大臣表彰

千歳スポーツ少年団 (山形市)

日本スポーツ少年団顕彰受賞者 (団)

渡邊洋一郎 (山形市) 安孫子喜美夫

(寒河江市) 蒲生則一 (長井市) 加藤

弘良 (酒田市)

朝日村スポーツ少年団

山形県スポーツ少年団表彰受賞者 (団)

須貝憲明 (山形市) 関 達郎 (山形市)

大沼啓助 (寒河江市) 落合喜久男 (尾

花沢市) 庄司信一 (真室川町) 伊藤長

栄 (川西町) 手塚幸一 (長井市) 上野

義弘 (鶴岡市) 高橋勝也 (酒田市) 鈴

木保一 (酒田市)

南部シャトルスポーツ少年団 (山形市)

みずき剣道スポーツ少年団 (天童市)

河北ドラゴンタイガーススポーツ少年

団 (河北町) ビッググローススポーツ少

年団 (東根市) 金山町柔道スポーツ少

年団 (金山町) 大塚スポーツ少年団

(川西町) ミラクル・キッズスポーツ

少年団 (白鷹町) 凌霄剣道スポーツ少

年団 (藤島町) 湯野浜女子ミニバスケッ

トスポーツ少年団 (鶴岡市) 櫛引町体

操スポーツ少年団 (櫛引町)

ワイドな補償でみんなの元気を応援します！

1,000万人の保険 スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動などに最適な保険です。

5名以上の
団体で
ご加入ください。

対象となる事故 ★グループ活動中の事故 ★往復中の事故

(保険期間) 平成16年4月1日午前0時より翌年3月31日午後12時まで (申込受付は3月から)

— お問い合わせ —

〒990-2412 山形市松山2丁目11番30号 ☎023(642)8321

財団法人 **スポーツ安全協会山形県支部** (山形県体育協会内)